MAIN ACTIVITY 01

西三河
南部

佐久島 海岸清掃＆島内サイクリング

日時：2022 年 7 月 9 日 (土)

場所：西尾市 佐久島

海岸清掃

海岸に漂着しているゴミをメンバーみんなと協力して拾いました。1時間程度の清掃で、持っていたゴミ袋がいっぱいになってしまうほどのゴミを拾いました。ゴミの中には、ペットボトルや缶などの家庭ごみだけではなく、「なぜこんなところに？！」と思ってしまうような、洗剤の容器や市外の看板、ゴミ袋、タイヤや木箱などの大きなゴミもありました。

また、釣り具のゴミも多く落ちていました。釣り具のゴミは、海に流れてしまうと海に棲む生き物たちが誤飲してしまい、死んでしまう危険性があります。釣り具のゴミは小さいものや細いものが多いからこそ危険であると感じました。

昨年の海岸清掃参加者によると、海岸ゴミの量が以前に比べ少なくなっていたという声もありましたが、まだ完全にきれいになったというわけではありません。このことから、定期的な海岸清掃が重要だと再認識しました。

島内サイクリング

昼食を食べた後、午後は島内をサイクリングで巡り、アート作品やスイーツなどの魅力を発見し、メンバーとも交流を深めました。

佐久島は三河湾の真ん中に位置しているということで、島のどこからでも綺麗な景色を眺めることができ、海岸にはさまざまな貝殻もありました。自転車でサイクリングをしながら実際に自分の目で見て、触れることで、写真で見るだけでは伝わらない島の魅力を感じることができました。

このような島の魅力を伝え、まず、観光に多くの方に来てもらい、海岸ゴミについて触れる機会を作ることができれば、地域活性化と環境保全を両立することができると感じました。

活動を通して

佐久島のある西尾市以外の市名が書かれている看板やゴミ袋など他の場所から流れてきたであろうゴミも今回を拾うことができ、潮の流れにより佐久島に流れ着いた川から流れ出たゴミということがわかりました。

佐久島での海岸清掃に参加して一番強く感じたことは、環境を保全していく中で一部の人だけで努力するのではなく、自分事として考えて一人ひとり意識を変える必要があるということです。

ゴミは全ての人が毎日必ず出します。そのゴミの捨て方を少し気をつけるだけで、漂着ごみを劇的に少なくすることは可能だと考えます。そして、全員が意識を変えるためには、まず海岸ゴミについて知ってもらう必要があると思いました。

今後も、海岸清掃の活動に参加し豊かな海を守ることに貢献していきたいです。

GAIAのみなさんには、2022年7月9日土曜日に佐久島の漂着ごみ回収に参加いただきました。
佐久島での活動は毎回楽しんで参加していただいて、こちらも皆さんに会うのが楽しみです。
次回は、ごみ回収だけでなく、次のステップへ行きましょう。
こちらは体制整えて待ってまーす。

島を美しくつくる会

三矢 由紀子 様

MAIN ACTIVITY 02

東部
丘陵

湿地は希少種の楽園！ ~湿地保全体験~

日時：2022 年 8 月 9 日 (火)

場所：長久手市　二ノ池湿地群

希少な湿地の生態系を守る

「長久手湿地保全の会」さんは定期的な生態調査を通して、東海地方にある様々な湿地を保全されています。

今回私たちが入らせていただいた二ノ池湿地は、地下から水が湧き出ている湧水湿地です。過去には、この土地は定期的に土砂崩れが起こった形跡があります。十分に森林が発達した区域が少なく、かつては、栄養が少ない土地が広域に広がっていました。それ故、栄養価の少ない土地を好む植物が多く生育しています。

現在は周囲に住宅街ができたことで治水・治山対策が十分に行われ、土砂崩れが起きにくくなりました。その影響で肥沃な土地になってきてしまったので、栄養価の少ない土地を好む植物は減少しているそうです。

活動報告

今回私たちは湿地に生息する希少種の観察と、希少種保全のための草刈りを行いました。

希少種観察では、あまり見ることのできない食虫植物であるトウカイコモウセンゴケや、とても小さい花を咲かせるミミカキグサ、特徴的な花弁を持つサギソウなど、気をつけて歩かないと踏んでしまいそうな小さな植物の世界に引き込まれました。

草刈りは真夏の暑い日だったので長い時間は行えませんでしたが、栄養がたまりやすい斜面の下の草を刈りました。湿地の植物は貧栄養の土地に好んでいる生育しているため、草刈りをして刈った草をよけることで湿地富栄養化の進行をとどめるようにしています。

活動を通して

私は今回初めて湿地に足を踏み入れ、湿地の世界に魅了されました。これまであまり触れることのなかった湿地という自然環境で、今まで見たことのない植物や虫に出会い、改めて生物多様性を構成する３つの多様性のうち「生態系の多様性」を感じることができました。

また、人の手は極力加えないことが保全と思っていたことが、人の手を加えないといけない保全の形もあるということに驚きました。

今後は他の湿地も見学しながら、湿地における生物多様性について理解を深めていきたいと思います。

この活動のやりがいは、毎年活動の成果を感じらえることと、仲間でワイワイ活動するのが楽しいことです。

普段はお年寄りばかりで活動しているので、今回水が多く大変な場所の草刈りを手伝ってもらえたのはすごく助かりました。またぜひ活動に参加してほしいです。

今回の活動で少しでも植物の可愛さが伝わったと思います。「雑草という名の草はない」というように、日常生活の中でも今日のことを思い出して、植物をかわいがってもらえたらうれしいです。

長久手湿地保全の会
会員の皆さま

MAIN ACTIVITY 03

東三河

『自然再生』とは何か？ ~草原再生を学ぶ~

日時：2022 年 9 月 10 日 (土)

場所：東三河ふるさと公園

失われた里地里山を後世に残すために

東三河ふるさと公園を「陸の豊かさを守る」SDGs活動の拠点とし、地域環境リーダーが中心となり、在来種の保全や外来種の駆除等の自然再生・保全活動を実施するとともに、新たな人材の育成とSDGs理念の啓発を図ることを目的として東三河環境SDGs実践事業が進められています。

東三河ふるさと公園三河山野草園では「失われた里地里山を後世に残すために」というテーマで多様な在来種の保全とカヤネズミが生息し、繁殖できる草地を目指しています。

活動報告

【虫追い＆植生モニタリング】

虫追いは、草地の中心に敷いた白い布に向かって一斉に足踏みをしながら近づき虫を追い込むもので、どんな虫がいるかを調べるために行いました。

植生モニタリングでは、ワレモコウ区間とオミナエシ区間で決められているコドラート内に生えている植物の種名と高さ、群度、被度を記録しており、ひと月に１回～２回のペースで継続的に行われています。

【在来種外来種椅子取りゲーム】

お昼からは、配られた植物のカードを持ちながらじゃんけんで椅子取りゲームを行い、最終的にどんな植物が残っていたかをみんなと共有するゲームを行いました。最初に椅子に座っているのは在来種で、その後どんどんじゃんけんに負けて入れ替わっていく外来種たちを見て、直感的に外来種が侵入する様子が分かり、GAIAでも取り入れてみたいと思いました。

活動を通して

建設工事後の緑化には景観保全、表土流出の防止のため短期間で早期に緑化が可能となる外来植物が多く活用されています。しかしそれによって在来種の生育が脅かされていることも少なくありません。今回の活動を通してそのことを知り、外来種緑化が他の問題を引き起こしてしまうということを学べました。

茅場の植生調査では、以前裸地にした場所とそれ以外の場所で一年草の植物が生えているかどうかの違いが見られました。裸地化した試験区ではカタバミなどの一年草の植物がしっかりと生えていて面白いと感じました。また、実際に行政が定期的に手入れをしている試験区と今回GAIAで訪れた生態系に配慮している試験区では、後者の方が粗雑な印象を受けましたが、圧倒的に前者よりも昆虫の大きさや数に差があったことも面白く感じました。

ふるさと公園には里山の自然がよく残されており、このふるさと公園を今後も活用していくために様々な取り組みが行われています。私たちはそんなふるさと公園を今後もみんなに伝え、利用して、そして里山についてを学び深めてもらうために活動をしています。

そんな里山との自然との接し方にはありとあらゆる接し方があります。私たちはその接し方を頭ごなしに否定することはありません。危険であったり、自然に負荷が強くかかることが予想される場合は、まず、一緒に考えてからより良い行動に変えてもらいます。その前提の中で、自然の面白さを見つけてください。

東三河地域環境リーダー養成講座
アドバイザー講師
瀧崎 吉伸 様

MAIN ACTIVITY 04

西三河

企業と連携した外来種駆除活動

日時：2022 年 9 月 16 日 (金)・17 日 (土)

場所：刈谷市　刈谷ふれ愛パーク

基本理念は「環境と調和」

「トヨタ車体㈱」さんは「地球にやさしい車づくり、人にやさしい車づくり」の基本理念の下、「地域と共生、自然と調和する工場」を目指しています。

その一環として「刈谷ふれ愛パーク」を設立し、地域のみなさんがスポーツのできる場所、農業が体験できる場所を提供するとともに、自然共生の場としてビオトープも創出しています。

さらに、刈谷ふれ愛パークに隣接しているため池で、地域住民と協力してミシシッピアカミミガメの駆除を定期的に行っています。

〈ミシシッピアカミミガメとは？〉

ミシシッピアカミミガメは池や川で見かけるカメの一種で、北アメリカが原産の外来種です。昔、ミドリガメとして日本にやってきて、縁日などで、売られていました。ペットとして飼育されていた個体が近くの池や川に放流されたことがきっかけで野生化しました。在来種であるニホンイシガメよりも繁殖力が高く、在来種を駆逐し、日本の生態系を破壊していることから「生態系被害防止外来種リスト」において「緊急対策外来種」に位置付けられています。

活動報告

【１日目:カメ罠設置】

矢部先生ご指導のもと、カメを捕獲するための罠を設置しました。カメを誘き寄せるための餌の設置方法から罠を固定する紐の縛り方まで初めてづくしで頭を悩ませながら行いました。

【１日目:トヨタグループ勉強会】

トヨタグループ内で行われた勉強会で社会人の方にミシシッピアカミミガメの駆除方法や外来種問題についての説明を作業を実践しながら行いました。社会人の前ということもあり、緊張で上手に説明できなかったのが悔しかったです。

【２日目:カメ罠回収】

前日に設置した罠を回収しました。罠の中にはミシシッピアカミミガメやスッポンが入っていて、大きいカメが入っている罠を引き上げるときは流石に苦労しました。縛った紐を解くのに時間をかけてしまい、未熟さを痛感しました。

【２日目:カメの計測】

捕獲したカメの大きさを計測しました。このデータは次回以降の駆除活動に役立てるそうです。カメが思い通りに動いてくれなかったので、１箇所計測するだけでも時間がかかってしまうことがあり、大変でした。

活動を通して

毎年活動の規模が大きくなり、この活動が支持を受けていることを実感しています。捕獲したミシシッピアカミミガメも調査地によっては駆除がほぼ完了した場所もあり、継続することの重要性を感じています。環境問題は効果が見えるまで時間がかかるものや、どれだけ頑張ってもイタチごっこで効果が数値として現れないこともあります。

しかし、そこで諦めてしまうと努力が水の泡になってしまいます。見た目の効果が確認できないことが例えあっても、やるとやらないは大違いです。これからも環境保全活動などに継続的に取り組んでいきたいと思えるような活動でした。

６年間の駆除活動により、南池のアカミミガメ駆除が進んで、アカミミガメに食べられていた水生植物のガガブタやヒシが生え始めています。これからはそれらの植物が蔓延りすぎないように人間が適切に管理していく必要があります。刈谷ふれ愛パークでの活動は、外来種防除の観点から見ると、成功している事例だと考えています。生き物を取ったり、調べたりすることを楽しみながらやって、関心を深めたり、自然のことを好きになって、環境問題の解決や自然の保護に携わってほしいです。

また、刈谷北部の自然がある池から動物が移動できるような場所作りなどができたらいいなと考えているので、興味がある人は参加してほしいです。

トヨタ車体株式会社
志水 剛 様

MAIN ACTIVITY 05

尾張
西部

エコミーティング体験 ＆ビオトープ見学

日時：2022 年 9 月 23 日 (金)

場所：愛知県あま市七宝町【工事現場】
愛知県海部郡蟹江町【ビオトープ】

エコミーティング

【エコミーティング】は、工事現場にて自然環境に配慮するために行われる会議です。今回は実際に蟹江川（愛知県）に架かる予定の橋について検討しました。工事現場は、橋の土台部分が既にコンクリートでできあがっていますが、今回は橋の土台が無いことを想定しています。生態系への悪影響を最小限にし、生き物の棲む自然環境を作るにはどのような方法があるのかを検討しました。例えば、橋ではなくトンネルを作る、計画よりも高い橋にするなど橋の形についての意見や、橋に田んぼを作る、川の中にガラス張りの橋を作ったら水族館みたいで楽しいなどの意見が出ました。

エコミーティングでは、一人一人が意見を出し合うことで、自分では思いつかなかった視点を知ることができ、とても参考になりました。また、技術面、金銭面で実現可能かどうかを抜きにして考えることで、アイデアの幅が広がったと感じました。実際に実現できるかどうかは別として、従来の橋の形式にこだわらず、よりよい形を追求することの大切さを実感しました。

ビオトープ見学

エコミーティングの後、ビオトープの観察をしました。池に仕掛けてあったワナからは、在来種のモツゴに加えて、外来種のアメリカザリガニやカダヤシが多数捕獲されました。

加藤建設さんによれば外来種は捕獲されるたびに処分されているそうですが、個体数が多く根絶にはまだまだ時間がかかるそうです。外来種の繁殖力の強さを実感しました。

活動を通して

今回の活動を通じて学んだことは２つあります。１つ目は、環境配慮計画を検討する時、あえて技術面、金銭面などの制約を考慮せず、理想の計画を追求することの重要性です。そうすることで、様々な画期的な考えが生まれてきます。

２つ目は、「外来種は持ち込まない」を徹底することです。加藤建設さんのビオトープの例から分かるように、外来種は一度侵入してしまうと、なかなか根絶できません。「持ち込まない」ことが、その地域の生態系を守る確実な方法です。

皆さんは将来、様々な道に進むと思います。しかし、自然環境は切っても切り離せないものです。生物多様性に対する皆さんの意識が高まり、より良い方法に向かっていくために、異なる分野の人々が協力していく、というのが大きな目標です。

私たちは、皆さんに自然環境を大切にしていく楽しさをどんどん広めてもらいたいと思っています。学生ならではの発信方法やアイデアをどんどん使って、自然環境を大切にする楽しさを伝えていってほしいと考えています。

株式会社加藤建設
経営企画室 自然環境課

久坂　耕 様

MAIN ACTIVITY 06

新城
設楽

湿地の希少種モニタリング調査

日時：2022 年 10 月 2 日 (日)

場所：黒瀬庄ノ沢緑地、鴨ヶ谷湿原、長ノ山湿原

湿地のあり方

今回の活動では、主要な湿地の場である長ノ山湿地に行く前に、黒瀬庄ノ沢緑地と鴨ヶ谷湿原を訪れました。

黒瀬庄ノ沢緑地は選択的な草刈りや、遊歩道の整備、水量の維持を徹底して管理しているため、人による管理がかなりされている場所です。

一方、鴨ヶ谷湿原は、人による管理が全くされていない場所で、残念ながら放棄状態にあります。

どちらの場所も、「湿原」ですが、人による管理がされすぎていると、それは「自然」ではなく、「人工的」に作られたものだという意見があります。一方で、人による管理が全くされていないと、植生遷移がすすんでしまい、やがて森林に遷移してしまう可能性があります。

このように、人による管理をどこまでするのかが湿地の維持の課題になります。

長ノ山湿地のあり方を考える

２つの湿地を見学した後、私たちは今回の活動のメインである、長ノ山湿原に行きました。

この場所は、昭和48年11月に愛知県の天然記念物に指定されました。その後、湿地の管理をどうすべきか、様々な議論がなされていますが、いまだにその方向性は定まっていません。湿地の保全目標をどうするか、そしてその達成のため何をどのような管理すべきかが、一番の焦点です。

その管理方法を考えるために、まずは今回のモニタリング調査で、この長ノ山湿地にどの生物が生育、生息しているのかを調査しました。今回の調査では、ヌマガヤ、ツクデマアザミ、ミミカキグサ、ホソバリンドウ、ホザキミミカキグサ、ミズギク、ウメバチソウ、サワギキョウの生育が確認され、メダカ、ハッチョウトンボの生息が確認されました。

活動を通して

私はこの活動を通して、湿地に限らずどの自然においても、人による管理をどこまでするかが自然環境保全で重要なポイントになるのではないかと考えました。

湿地は、完全に放置していれば、植生遷移が進行し森へと変化していきます。しかし、湿地にしか棲めない生物を守るには、湿地の維持が重要になります。湿地特有の生物を守ることは、「生物多様性」を守ることにもつながります。

また、湿地を維持するのにも、草刈の費用などの維持管理費が必要となります。それ故、費用を捻出するために、湿地の観光地化も考えて良いのではないかと私は考えます。

湿地の観光地化も含め、大きな視野で湿地のあり方を考えていく必要があるのではないでしょうか。

東三河総局の実施する東三河自然再生推進事業では、実践的な環境保全活動を通した人づくりや普及啓発活動を行っています。

この事業では主として即戦力となる人材の育成を目的としていますが、地域の自然を保全していくためには、今、活動していただく方だけでなく将来を担うユース世代の方の協力が不可欠です。GAIAの皆さんには様々な活動を見て、体験していただき、そこで感じたことを同じ世代の方たちに広めていただければと思います。

愛知県 東三河総局　環境保全課

柴田　夏希 様

MAIN ACTIVITY 07

尾張
北部

人の手で守る“里山” ~里山整備体験~

日時：2022 年 11 月 26 日 (土)

場所：犬山市 犬山里山学センター

活動報告①

NPO法人 犬山里山学研究所の皆さんと、田んぼの水路掘りを行いました。田んぼに行くまでの山道を進みながら、自然観察をしました。里山ならではの植物やイノシシの足跡を観察できました。

田んぼに着いたら、先に作業をしていた職員さんから、なぜ排水が必要なのかの説明を受けました。お米を収穫するためには田んぼの水を抜く必要があるため、排水が上手くできないとお米が腐って収穫できなくなってしまうそうです。雨が降ると掘った水路が埋まってしまうことや、田んぼをイノシシに荒らされることも聞きました。

活動報告②

説明を聞いた後、田んぼの水路掘りをしました。水を吸った粘土質の土がとても重くて、掘るのに苦労しました。田んぼの整備をしている【果づくり塾】の方々は、田んぼの排水のために毎年水路を掘っていると話していました。その継続的な取組みがすごいと思いました。土を掘っているとミミズやオケラなどの生き物が出てきたり、周辺にはカエルがいるなど、田んぼの生態系の豊かさを実感しました。

水路掘りの後、犬山里山学センターの見学を行いました。近隣の里山に生息する生き物の標本が展示されていました。

活動を通して

今回の活動を通じて、お米づくりの大変さを知ることができました。私は、田植えをして稲が実ったらそれを収穫して終わりだと思っていましたが、排水ができないと収穫もままならないことを学びました。

以前、コンクリート張りの護岸の水路を見て、「環境に悪いのに、なんでこんな護岸にするんだろう」と思っていました。しかしながら、今回、水路を掘る作業を体験し、その大変さをひしひしと感じました。毎年この作業が必要であることを考えると、護岸の水路も必要であると思いました。

農家の仕事はお米をつくることであり、環境を守ることが主な目的ではありません。農業と環境保護の両立が容易でないことを実感しました。今後も、農業と環境保護が共存できるよう、取り組んでいきたいと思います。

犬山里山学研究所は、15～16年前に同じ考えを持った人々が集まってできました。大学や研究機関ではできない役割を担い、「市民がつくる里山学」を形成することを目指しています。

以前から生物調査や環境保全を実施するとともに休耕田を農地とし活用できるよう整備をしています。里山整備は、人間と動物がすみ分けるためにも必要だと考えています。イノシシの被害や排水などの問題には苦労していますが、自然と触れ合えることがやりがいです。

NPO法人 犬山里山学研究所

沼田　浩 様

MAIN ACTIVITY 08

知多
半島

竹林整備体験&竹皿カレー会

日時：2022 年 12 月 4 日 (日)

場所：美浜町　布土地区内竹林

里山の環境を守るために

知多半島に位置する美浜町は海と山に挟まれた自然豊かな環境ですが、外来種のモウソウチクによる森林の劣化が問題となっています。この竹は繁殖力が非常に大きく、わずか1年で8メートルほどにまで成長します。そして竹の先端に葉が生い茂り太陽の光を遮るため林床部に光が行き届かず、他の植物の成長が阻害されて単調な森になってしまっています。

そのような状態を解消するため、美浜町竹林整備事業化協議会「モリビトの会」さんは過密に生育している竹を切り倒し、森林内に日光の当たるスペースを適度に作ることなどの森林の再生活動に取り組んでいます。また、切った竹を燃やして炭を作り、それを畑にまくことによる有機農業の普及促進に役立てることも主な活動としています。

活動報告

【竹林整備】

モリビトの会の方々に指導していただきながら、一人１本の竹を伐採しました。竹には重心があり竹の倒れる方向などを確認しながらのこぎりを半分まで入れてから反対側から少し段差をつけて切ることで、竹の重みで倒すことを学びました。この作業では、声で周りの人に注意を呼び掛けながらすることが事故防止につながることも学びました。また、竹の運搬作業も体験しました。竹を斜面に滑らせるのが非常に難しく、途中で引っかかったりすることがありました。そのたびに修正する作業が大変で、かなり体力を要する作業でした。

【竹炭作り】

伐採した竹から竹炭を作る作業を行いました。竹を火の中に入れて黒くなるまで焼き、その後、水をかけながら人の足で踏みつけ細かく砕きました。この作業でできた竹炭を畑などに混ぜて使うことで土壌改良ができたり、二酸化炭素の固定に役立つそうです。

活動を通して

今回の活動では、竹林の整備が重要だとわかりましたが、担い手が少なく、参加者も少ないため、思った以上に進んでないことがわかりました。また、竹炭を作って販売しても、完売することは少なく、大量に倉庫にたまってしまっている現状があることもわかりました。

竹林整備を初めて体験しましたが、竹の重さや切るときに重心を意識して切ること、竹を滑らせて下まで運ぶことの難しさなど、体力が必要な大変な仕事であることを実感しました。また、担い手が少ない理由についてもよくわかりました。竹林整備がもっと身近なものになるために、今後も取り組みたいと思います。今回の経験を通じて実際に体験することの重要性を再認識しました。

現在モリビトの会は美浜町の荒れた竹林を再生して、それを農業に生かして循環型社会を作ろうということで活動しています。モウソウチクは成長力が強く、里山の中に進出して元々生えていた木などを枯らしてしまうので、竹を切り倒してそれを燃やして作られる竹炭を畑などに撒いて、有機農業を復興させようという取り組みをしています。モリビトの会は人力でやっていることが多いので、若い人が参加し、人数が多いと雰囲気がよくなり、力作業が楽しみながらできます。

学生達には、今作っている竹炭をどのようにしたら利益を出しながら持続的に活動できるのかを考えていってほしいです。

美浜町竹林整備事業化協議会
「モリビトの会」

山野　みさき 様

MAIN ACTIVITY 09

渥美半島

海岸清掃 ＋ 塩づくり&BBQ

日時：2022 年 12 月 11 日（日）

場所：田原市　西の浜海岸

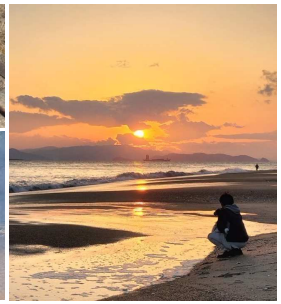
海岸清掃

田原市の西の浜海岸で海岸清掃を行いました。海岸には、たくさんのペットボトルや空き缶などのゴミの他にも、ぬいぐるみやブイ、緊急用のパラシュートなどの見たことないゴミも拾いました。海岸に落ちているゴミはとても多いため、拾うのには多くの人手と時間が必要です。亀の子隊さんは、西の浜海岸で長年海岸清掃活動をしておられます。その中で様々な市区町村の名前が入ったゴミなどを拾われていました。内陸からのゴミも多くあるとお話をしていただきました。これは川に流れ出たゴミが川から海にゴミが流れているということです。また三河湾は湾口が狭く、海水が流れ出にくく、内湾の海岸である西の浜海岸にゴミが多く流れ着いているとのことでした。

私たちがすべきことは、海岸清掃をしてきれいするだけではなく、川に出るゴミを無くすことです。そのためにはポイ捨てせずに地域のゴミ収集場所に正しく出す、さらに、ゴミを減らす工夫をしていくことだと痛感しました。

塩作り＆BBQ

午後からは、休暇村伊良湖のキャンプ場にて、塩作り&BBQを行いました。塩作りでは、伊良湖の海水を使って塩を作りました。ご指導の元、火を起こしたら、鍋に少しずつ海水を入れて、沸騰させながら、水分を蒸発させるのを繰り返して、塩を作りました。鍋の底に白いものが付いてきたら完成です。水分を飛ばし過ぎると、鍋の底に付いて焼きじおになってしまうので、少し水分が残るくらいが良いです。作った塩は飯ごうで炊いたお米と一緒におにぎりにしました。味はミネラルを多く含み、深みがあり、いつも食べている塩よりも濃く感じました。BBQでは鉄板で、野菜、お肉、魚介を焼いて食べました。たくさんの量があり、とても満足感がありました。塩も、BBQも活動した後だったので、とても美味しかったです。



活動を通して

この活動を通して、自分達が使用したものや消費したものがゴミとなり、川を通して、海まで流れていることが分かりました。海岸清掃をして、ゴミを拾って、海岸をきれいにするだけではなく、海に流れ出るゴミの量を減らしていくことが大切だと考えます。海洋ゴミの数が海洋生物の数よりも多くなってしまう現状を知り、1人1人が意識を少しずつでも変えていくことが重要です。たとえば、マイボトルを持ったり、レジ袋をもらわないようにすることや包装の少ないものを選んだりすることにより、自分達が出すゴミの量を少しでも減らして、海岸に流れ着くゴミを減らせるようにしていきたいです。

また自分達が意識していくだけでなく、これらの現状をSNSなどで発信していき、多くの人に知ってもらい、1人でも多くの人が意識を変えてくれるように努めることも、自分達の役割だと思いました。

亀の子隊では西の浜海岸で海岸清掃を毎月1回に加えて、特別活動として企業や行政とも行っているので、多いときには年15回ほど行っています。加えて、今回のような海の環境を学ぶ会を年7、8回と、イベントなどで広報活動を行っています。

今回は塩作りをしてもらいましたが、塩作りは海が綺麗でないとできません。ユースの皆さんには、今回学んだことを沢山の人に伝えることをしてほしいです。また、現代の色々な技術が発達している中でどうしたらゴミが無くなるか、ゴミを捨てない心はどうしたらできるのかということを考えてほしいです。

環境ボランティアサークル
亀の子隊
鈴木　吉春 様

Special Activity 01

SDGs AICHI EXPO 2022

開催概要

日時：2022 年 10 月 6 日（木）～ 8 日（土）

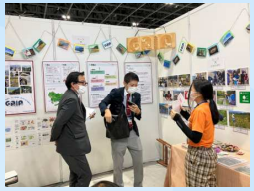
場所：愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）

SDGs AICHI EXPO 2022は、国際的な課題や地域の課題に取り組む様々な主体のパートナーシップ構築を目的としたイベントです。GAIAも自分たちの活動をより多くの人に知ってもらうため、去年に引き続き2回目の参加となりました。自分たちの活動を知ってもらうだけでなく他の団体のブースを見ながらたくさんのことを学びました。

ステージ発表

昨年に引き続き、GAIAはメインブースでのユースセッションと愛知県ブースで取組発表を行いました。ユースセッションでは中高生の発表や意見を聞いて刺激を受けました。また、質問をいただいたことでさらに視野が広がりました。今後もたくさんの人との意見交換を通して視野をひろげていきたいと思います。

ブース出展



昨年よりも手作り感のある温かみのあるブースになったと思います。ターゲットを決めるなど一から自分たちで作り上げる経験はとても貴重な経験になりました。
ブース出展の経験が浅く、インパクトのあるデザインがなかなか思いつかなかったところが苦戦しましたが、出来上がったブースを見ると達成感がありました。
GAIAのSNSをフォローしてくれた方にお渡ししたグッズも好評でうれしかったです！おそろいで作ったTシャツは今後活動で着用したいと思います！

エキスポ参加を通じて

私たちは保全活動と情報発信を軸に活動しており、 SDGs AICHI EXPO 2022に参加することは情報発信の面でとても重要なイベントです。半年かけてミーティングを重ね準備してきた成果を発表でき、たくさんの人に足を運んでいただき、とても有意義な3日間になりました。
来てくださった皆さん、ありがとうございました！